

## 令和3年度 第4回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 令和4年1月27日(木) 午後2時から3時10分まで
- 2 会 場 中央図書館 3階視聴覚室
- 3 出席者 委員：8名(欠席4名)  
事務局：中央図書館長、中央図書館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、  
サービス担当係長、資料担当係長、歴史公文書担当係長、津田図書館長  
(計7名)
- 4 傍聴者 なし
- 5 配布資料
- ・小平市立図書館職員の異動について (資料No. 1)
  - ・小平市立図書館行事等の報告と今後の予定 (資料No. 2)
  - ・月別館別貸出資料数 (資料No. 3)
  - ・広域利用市別貸出 (資料No. 4)
- 6 職員の人事異動について(資料No. 1)  
令和4年1月1日付で、図書館において3名の異動があった。
- 7 議事
- (1) 報告事項
- ① 図書館運営状況について
- ・小平市立図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No. 2)
    - 11月から12月は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いていたため、おはなし会や学校見学を実施した。
    - 11月23日(祝)、Zoomによるオンライン開催で「かがくあそび とぶたねを作ろう」を実施した。
    - 11月17日(水)、ブックスタートに事業にかかわっている「絵本でつながるボランティア」の方々を対象に研修会を実施する予定だったが、中止となった。
    - 12月18日(土)には、Zoomによるオンライン開催で「錯視の不思議」を開催した。
    - 令和4年1月8日(土)からは、毎年恒例の「ふるさとの新聞元旦号展」を開催している。
    - 1月23日(日)には「絵本と鳥の巣の不思議 鳥の巣が教えてくれること」と題し

て、こ दौरら子ども文庫連絡協議会と共催での講演会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大により中止とした。

1月25日(火)からは、ブックリサイクルを常設で開設している。例年だと、会場を設け、期間を限定し実施しているが、大変な混雑となることから、他市の例を参考に常設型で設置をしている。

・令和3年度月別館別貸出状況(資料No.3)

12月はいずれの数値も11月に比べると低調となっている。12月は開館日数が10月や11月よりも3日ほど少なかったことなども原因の一つと考えている。

・令和3年度広域利用市別貸出状況(資料No.4)

広域利用の市別貸出状況も、月別貸出状況と同じ傾向が見られる。

② 12月市議会定例会について

市議会の一般質問では、図書館関連で1件の質問があった。津本裕子議員(市議会公明党)から「電子書籍の検討を早急に進めタブレット端末の有効活用を」という質問があり、内容については以下の3点。

1点目。電子書籍の検討状況は、との質問があり、導入した場合の費用コストやメリット・デメリットについて、他団体の事例なども含めて様々な観点から研究していると答弁した。

2点目。岡山県教育委員会が県内中学校向けに開設している電子図書館を例に小平市でも実施すべきではとの質問があり、小平市では図書館がおおむね徒歩15分の範囲に立地していることから中学生を対象とした電子図書館は現時点で考えていないと答弁した。

3点目。電子図書館は広域での運用も有効だとして、東京都への要望を検討すべきでないかとの質問があり、広域での電子図書館の連携は各市での経費の按分や選書基準の違いといった課題があり難しいと考えているが、機会を捉えて東京都に要望すると答弁した。

③ 図書消毒器の設置について

12月25日から中央図書館に1台の紫外線図書消毒器を設置し利用を開始した。1度に6冊ほど本を入れ、30秒間紫外線を照射するものである。現在までに1日当たり多い日で30件程度の利用がされている。

④ ふるさとの新聞元旦号展について

今年で第42回となるふるさとの新聞元旦号展について、1月8日から中央図書館、15日から上宿図書館、22日から大沼図書館、29日から2月3日まで小川西町図書館で開催する。今年も新型コロナウイルス感染症の影響で、年末年始に帰省を控えた方などが多く、故郷のニュースを知る機会として、懐かしめてよかったなどの声をいただいている。

(報告事項についての質疑・応答)

委員：月別の貸出資料数について、この資料を作成する理由は何か。地域の実情を知るという意味か。

事務局：地域ごとの状況や時期的な状況の変化を見るためである。

委員：例えば、仲町図書館は他館と比較し児童書の貸出数が多い。仲町の周りには子育て世帯が多いのか。そういった分析に繋がれば、来館してもらって新たな試みができるのではないか。また、どの地域から来ているか、どの年代の人がどのような本を借りているのかなどのいわゆるビッグデータを活用できるのではないか。

事務局：統計のデータは、年度ごとの事業概要に掲載している。他のデータも様々掲載しているが、他館と比較してこの館にこの資料を増やそうかなどを検討する際の資料としている。

委員：図書消毒器設置後の利用者の反応はどうか。

事務局：当初の予定より早く12月25日に設置した。1時間当たり数件の利用があり、1日平均で15件から30件程度利用されている。貸出カウンター付近の目立つ場所に設置しているが、利用はあまり多くない。地区図書館にも置いてほしいとの要望もあるが、一台当たりの価格が100万円程度することもあり、地区館に設置するのは現状では難しい。

委員：電子書籍について、小学校でタブレット端末が配付されているが、学校図書館の支援として、今後どのような連携をしていくのか。

事務局：電子書籍のシステムは、著作権の問題もあり同時接続数に制限がある。また、電子書籍を提供する事業者もサービスを改善するかもしれないので、情報収集に努めたい。また、立川市では、生徒に電子書籍が使えるIDとパスワードを配布している。

委員：子どもたちが持っているタブレット端末から市立図書館の蔵書検索はできるのか。

事務局：インターネットに接続すれば、図書館のホームページにアクセスし検索が可能である。

委員：国分寺市の本多図書館では託児付きサービスを行うと聞いている。また小金井市の図書館では、ビブリオバトル※をやっている。小平市でも実施を検討してほしい。

(※参加者同士でおすすめ本を持ち合い、その本の魅力を紹介し合う書評合ゲーム)

事務局：小平市でも以前、託児事業やビブリオバトルを実施していた。新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いたら、また実施したい。

会長：返却された資料を、図書館員が図書消毒器を使って消毒しないのか。

事務局：利用者にご自身で利用してもらっている。職員は使い方の案内はするが、消毒作業はしていない。

委員：小平第一中学校では、図書消毒器を学校予算で購入した(10~20万円)。小平第一中学校では、学校図書館に返却された本を消毒し、排架している。

委員：消毒器の価格にだいぶ差があるが、図書館と学校のものの性能の違いはどうか。

事務局：機能や大きさなどによって価格が変わってくる。公立図書館では100万円超の製品の導入が多い。当図書館に設置した製品は、紫外線を照射するランプや収容冊数が多く、送風でほこりやごみを落とす機能や消臭機能も付いている。学校で使用される製品は送風や消臭機能までは付いていないのではないかと思う。

会長：利用者が安心して使えるよう、図書館の本はすべて消毒されていると嬉しい。図書館で

は、空いている時間に返却本を消毒するつもりはないのか。

事務局：小平市の図書館は、開館以来、アルコールによる返却本の拭き取りを図書清掃として行っている。汚れを拭き取ることによって本を長持ちさせようとする観点から行っていた。消毒器は、利用者自身で操作していただき、安心感を得てもらうものであるため、返却本をすべて消毒器にかけるということは考えていない。

会 長：小平市はアルコールによる図書清掃が徹底しており、返却本は清掃を経由してから排架されているため、安心感に繋がっている。

委 員：中央図書館には多くの資料があるが、自分で図書館に行って、書庫の中から資料を探し出すという割合はどのくらいか。

会 長：数値はとらえていないが、高い割合ではないかと思う。

委 員：前回の協議会の後、中央図書館の地下書庫を見学させてもらい、その規模の大きさに驚いた。子どもたちにも見せると感動するのではないか。図書館の所蔵はこんなに大規模なのだということが知られ、関心を持ってもらえると思う。また、資料を探すには様々なやり方はあると思うが、膨大な資料の中から目的の本を探し出すことは素人には困難だと感じた。

事務局：中央図書館の地下書庫は、小学生の図書館見学の際に見てもらえる機会がある。新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いたら再開したい。本の探し方については、あらかじめインターネットで調べてくる利用者もいれば、実際に手に取って見て、借りる方など様々である。なお、令和2年度の図書館全体の貸出数は114万件で、そのうち予約が28万件であるので、予約なしで（来館して）借りていく件数のほうが圧倒的に多い。

会 長：本の探し方には様々な方法がある。欲しい本が決まっている場合は、OPAC（所蔵図書の検索機）で調べることができ、場所の案内も容易だが、そうでない場合は難しい。そのため、図書館にはレファレンスサービスがある。利用者は、レファレンサー（窓口の図書館職員）に自身が求めている内容を伝えると、それに関連する資料や場所を教えてもらえる。例えば、星座について調べたい場合は、星座は科学の分類になるが、それに関連して「織姫」や「彦星」といったことは童話や小説のところにも結び付くことになる。織姫についてネットで調べれば、文学的な分野と科学的な分野が出てくる。そういったデータを見込んで案内し、利用者と図書を結ぶ支援をしてくれるのが図書館職員（レファレンサー）である。我々、協議会委員が従前から言っているのは、購入資料の書誌データは、レファレンスを見込んだ専門的視点で、付加情報をきちんと記録し残してほしいので、図書館に専門の職員（司書）を配置してほしいと何度も言っている。そうすれば、どんな大規模な図書館であっても資料は探すことは必ずできる。密集書架にある多くの資料の中からどのように本を探すのかとってしまうが、図書館職員に相談すればどうにか探してくれるので、利用者にはもっと職員の専門性を活用してほしい。

委 員：国分寺市の図書館が、令和3年度子ども読書活動優秀図書館文部科学大臣表彰を受賞したという記事が出ていた。小平市でも、表彰を目指してできることはあるか。

事務局：表彰を目指して事業を実施するのではなく、子どもたちに対して読書をすすめていく事業を継続して実施する。その活動の結果が表彰となると思うが、地道にやっていきたい。

会 長：子ども読書活動については、文部科学大臣に申請し、選定されるものだと思う。小平市も、実施している事業をどう発信していくかだと思う。古い話だが、小平市立図書館の電算化のきっかけは国の補助制度の活用であった。歴代の館長たちが、小平市で学校図書館と地域の図書館をネットワークでつなげるシステムによって、学校図書館と図書館の充実を図り、使いやすい図書館にしていくということを目指し、申請が認められて補助金を受けた経緯がある。賞についても、図書館がどこまでやる気になるかということだと思う。

事務局：補助金などの情報の収集にも努め、利用できるものはなるべく利用していきたい。

委 員：毎年、本の福袋をやっていたが、今年はどのような状況か。

事務局：今年度は、本の福袋という形式では実施をしていない。本の貸出パックとして、名称を変え実施している。

委 員：小川西町図書館によく行くが、残っているセットがあったので気になっていた。

会 長：最近のコロナ禍の状況により、大きく運営状況を変えたところはあるか。

事務局：12月以降において、図書館の運営で大きな変更はない。ただ、12月以降、おはなし会を再開しているが、密を避けるため以前に比べて対象人数を少なくしたり、事前申込制にするなど、やり方を工夫している。

会 長：人数を縮小しても、必要なおはなし会等は継続して実施しているのか。

事務局：今のところは実施している。

会 長：学校の図書館見学が中止になっているものが数件あるが、これは学校からの申し入れで中止になっているのか。

事務局：図書館見学の場合、大勢の児童が来ることになり、他の利用者にも配慮し中止せざるを得ない状況である。

会 長：学校見学は、人数を分けたり、時間をずらしたりすれば、実施できるのではないかと思うが、学校との協議で決めているのか。

事務局：そのとおりである。

会 長：政府による、まん延防止等重点措置が施行されて以降、来館者は減っているか。

事務局：現場の感覚では増えていると思う。学級閉鎖など、学校も大変な状況になっているので、図書館で本を借りて補っているところもあると思う。

委 員：コロナの感染状況は、今後もしばらく続くのではないかと思うが、4月からの図書館行政は、ウィズコロナでどうやって運営していくのか。

事務局：コロナの状況下になり2年になるが、少しずつ、オンラインでイベントを実施したりもした。電子図書館との声も高まってきている。

会 長：学校では、本年度から子どもたち全員がタブレット端末を持っているが、そこに青空文庫の名作といわれるものをダウンロードすることは可能か。

委 員：学校として対応はしていない。都立図書館や、青空文庫のホームページ等の紹介はしている。本校（中学校）の場合、生徒がタブレット端末で本を読むことは少なく、実際の本を手にとることの方が多い。青空文庫はとても良いが、子どもがすぐに読みたいものがなかったり、無料提供されるものは種類が少ない。そのため、子どもたちが読みたい

書籍は、意識して学校図書館にそろえるようにしている。学校としては、紙の本を使って、調べる力もつけてほしい。Chromebook（クロームブック端末）を1人1台配付してからは、安易にインターネットで調べるのではなく、あえて紙の書籍を使って、調べることをさせたいと思っている。ただ、様々な電子サービスがあることは今後も紹介していきたい。

会 長：コロナ禍の状況であっても公共図書館は休館していない。学校も、感染者が出たからといってすぐ学校閉鎖するわけではない。状況を見ながら、学校図書館や公共図書館を利用する方が多い気がする。それは子どもたちにとってもありがたいことである。

委 員：外に出られない状況が続いていると、本でも読もうかという方々が増える。

会 長：我が家も同様で、子どもは定期的に本を借りてくる。2週間後に10冊図書館に持っていき、必ず新しい10冊を借りてくる。

委 員：本年度の5月頃は感染状況により休館していた頃だが、児童書だけは（貸出数が）変わっていない。本が求められているなど感じる。

会 長：小平市は近くに図書館があり、ありがたいことである。

委 員：仕事の都合で様々な世帯や施設に伺うことがあるが、高齢者が何もやることがないと言うのをよく聞く。介護職員が本を届けるとか音楽を届けるとか、何か図書館とつながりが持てないだろうか。また、視力が衰えると本を読むのが困難になってくる。友人は、落語を録音したものが楽しみだと言っていた。例えば短編の小説を録音したものなどが利用できると、施設に入っている高齢者も楽しい時が過ごせると思う。

事務局：施設まで全て含めると難しいが、小平市では、CDやカセットの貸出を行っている。将来的には、オーディオブックといったサービスも検討していきたい。

委 員：今、宅配サービスは実施しているのか。

事務局：要介護1以上の登録者に、本などを自宅まで届けるサービスである。1月現在で利用者は延べ107人、すべての数字は出そろっていないが、貸出数は715冊以上となっている（令和3年4月から令和4年1月までの数値）。

委 員：要件の緩和があり、増えてきた実感はあるか。

事務局：ある。要件をさらに緩和し、拡大していく予定である。

会 長：宅配サービスを受けるには、図書館に登録し、宅配サービスを受けたい旨を申し出るのか。

事務局：そのとおり。

会 長：申請、登録して、自分が希望する本やCD、カセットを届けてもらうということですか。既存の本を朗読し、録音したものを貸し出すことは可能か。

事務局：デジ書を作ることはできるが、デジ書を聴くためにはソフトをパソコンに搭載しないと聴くことができない。なお、デジ書の再生機の貸出も行っている。

会 長：新しく録音してもらえるのか。

事務局：可能である。

会 長：それをどう高齢者に周知し、宣伝していくかだろう。図書館だけの努力ではなく、高齢者と関わりがある民生委員や地域包括支援センター、関連部署等にも働きかけしないと、

仕事は充実していかない。来るのを待っているだけではなく、宣伝をして、利用してもらえるようになればいいと思う。

事務局：サービスの概要については、市が広く配布している「高齢者のしおり」などに載せてもらっており、問合せもいただいている。

会長：デジター図書については、機械も貸りられるということを宣伝してほしい。自分の家の本でも図書館にその本があればデジター図書を作ってもらえるということになる。そういったことも皆さんに知ってもらいたい。

(2) 協議事項

なし

(3) その他

なし